

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人 双友会		
事業所名	(短期)(介護予防)認知症対応型共同生活介護 つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成30年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

つつじのさとでは、居心地の良い環境を考えながら、利用者様が安心して暮らせるよう支援しています。季節を肌で感じるよう、外出、外食等の支援を心がけ、楽しみある生活を大切にしています。毎月2回、併設の小規模多機能の利用者様と合同で食事会を行い、お互いの交流の場としています。毎月、地域密着型のスタッフで、よんなっせカフェを開催して、地域の方との交流する場となるようにしています。月毎に季節にちなんだ催しや絵画展、写真展等開催、気軽に利用できる地域交流の場を目指しています。この秋にも、毎年恒例となってきた運動会(食事会)を開催、家族の方も協力・参加して頂き、皆で楽しみながら同じ時間を共有することができました。この秋には、自動連動装置(火災)を設置。火災等は、消防署に自動で連絡がいく装置が設置され、さらに火災等の防災への機能が充実しています。地域の方との関わり、利用者様が、安全、安心した生活が送れるよう、防災意識を持ちながら、定期的に防災訓練を行うように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングホールの採光は季節や入居者の状況によって調整され、体操や食事、新聞を開いたり、うたた寝などその時々で居心地よく過ごされる姿にホームの日常が伝わってくる。開設から9年、地域交流スペース『よんなっせ』では、音楽療法やパッチワーク、クリスマスリース作りなどを楽しみながらのカフェや、写真・油絵の展示など当初手探りであった取り組みが順調な活用に至っており喜ばしいことである。管理者は発せられた一言を聞き逃さず、食事や外出支援をはじめできることを探し、展開できることや継続できること、見直す必要など先頭に立って業務にあたっている。また、職員も経験や特技を活かしながら、入居者の一人ひとりのペースに合わせた暮らしを支援している。今後も旧大津街道の歴史を感じながら、地域の中で新たな年月を重ねていかれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月ミーティングを開催、スタッフ間で話し合いする機会を持ちながら、つつじのさとの理念を共有しています。利用者様を支援し、地域の方との関わり持ち、地域で安心して暮らすことができるように、皆で意識共有するようにしています。	法人の理念を踏まえて、事業所独自に理念を制定している。理念は、ホールへの掲示やパンフレットにも掲載することで家族や関係者への周知に繋がっている。毎月のミーティングの中で、研修を兼ねて、寄り添うことの意義など内容について話し合うなど、スタッフ間で理念の共有と意識付けが図られている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(つつじ祭り、地蔵祭り、福祉祭り等)をはじめ、防災訓練、よんなっせカフェ、地域清掃等地域の中で協力しながら、関わりを大切にしています。地区の会合にも出席して、地域の方とも顔見知りの関係性ができてきました。	理念の中の一つに、「ご家族や地域の方とのつながりを大切にして、人と人とのぬくもりを感じられる関係づくりを目指す。」と掲げている。大津地蔵祭りでは、かき氷で地域の人と一緒に出店し、福祉祭りでも積極的に関わりを持っている。多目的ホールは、地域の防災訓練の会議、フラダンスの会合やペン習字教室などに活用されている。地域交流スペースでは、よんなっせカフェが毎月開かれ、写真・絵画展等も開催されている。また、清掃活動への参加や毎月地域のごみ拾い活動に取り組むなど、地域の一員として活動している。	訪問当日也多目的ホールでは絵画展が開催中であり、入居者と共に来訪者にも心安らぐ光景であった。開設から年月を重ね、地域との顔なじみの関係が増えてきており、今後も協力関係が継続されることに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、地区の区長等とも関わりを持つようにしています。認知症養成講座では、認知症になっても安心して暮らせるように、認知症を正しく理解し、関わり方や早期発見の必要性等を伝えるようにしてます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族、行政等へ、ホームの状況や様子等を伝えるようにしています。事故報告等でも状況を伝え、再発防止策等へつながりしています。外出等、楽しんで生活している事等においては、良い取り組み等意見頂いています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回多目的ホールで、併設の事業所と合同で開催している。会議では、活動を含め入居者の状況や、事故対応、再発防止策等について報告を行う他、外部評価結果についても説明を行っている。出席できなかった家族等には、入り口ホールに議事録を置いて会議内容を開示している。内容は写真付きで分かりやすいものとなっている。	家族の参加は困難な面もあるようだが、引き続き働きかけを継続されることを期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新調査、震災における書類等、常日頃より、関わり連携しています。介護、防災等今後の連携の必要性も強く感じています。昨年、2回目の実地指導もあり、常に連携を保つようにしています。	町から、運営推進会議に毎回出席があり、直接ホームの現状を知ってもらい、また、様々な情報を提供を受けている。徘徊時の「安心声かけ」対策、防災対策会議や福祉祭り等には積極的に参加しているほか、民生委員対象の認知症サポート養成講座では管理者が講師を務めるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域に開かれる場所として、付き添い、見守りを第一に考え、安全面で配慮できるよう意識して取り組んでいます。日中は、自由に、玄関、通路等出入りできるようにしています。利用者の動きを見守り、自然体で居れるよう支援しています。	日中は、玄関や多目的ホールへの扉も施錠をせず、自由に出入りできるようにしている。虐待等の報道があれば、認知症ということだけでなく人間としての尊厳について、話題として取り上げている。状況により、口調が強くなる場合は専門職としての自覚を促している。センサーマットの利用は、家族に説明し、引き続き了解をとるようにしている。	身体拘束に関するあらたまった研修会は開催していないが、職員間で気になる事があれば、声を掛け合っている。入居者への対応に限らず、職員同士のやり取りも、影響をあたることもあり、今後も入居者が安心して過ごせる環境に努めていかれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	血腫等外傷がある場合には、事故報告書等活用しながら、状況把握行っています。自分のペースを大切に、排泄、訴え、動き等、さりげなく声かけ行い対応できるよう、意識共有して取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、社協の権利擁護で金銭管理等日常生活自立支援制度を利用している方もいます。本人のお金は、金庫に預かっています。安心されるよう声かけ支援し、また金銭面での不安がある時は、財布を渡し、中身を確認して頂き安心するよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金等の説明や状態が悪くなった場合の対応、また、入居しても、外泊(外出)等自由に出る事等を、最初に説明を行うように心がけています。重要事項、契約書への書面での疑問点等がある場合も気軽に伝えて頂くようにして、概要を説明するように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご家族の意見や運営推進会議での課題等次に反映できるよう心がけています。利用者、本人の思い、意向を把握して、要望等応えるように個別支援に配慮しています。運営会議毎、地域、家族、行政、事業所等での情報交換の場になっています。	意見、要望について入居者からは会話の中で、家族からは面会時やイベント時に聞いたり、運営推進会議でも確認している。また、入居時には外部の窓口を説明している。心配等表明されたときは、安心されるように説明し速やかな対応に努めている。意見箱を1階の玄関に置いており、いつでも気づいたことを気軽に書いてもらうよう広報誌の中でも呼び掛けている。	意見箱についてはなかなか活用に至っていないのが現状のようである。今後はアンケート式など記入しやすいよう工夫を行なう事で、活用につながる事が期待される。検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる場を設けてあり、何かあれば意見をきく機会があります。方針を理解した上で、スタッフの働く環境にも配慮しています。母体との連携しながら、職員の環境面に配慮している。	申し送り時などで、職員からの意見が出やすい雰囲気づくりに努め、意見や提案等を確認している。休憩時間も、意見を聞きながら取りやすいように工夫している。管理者は母体（特養）とも連携し、統括管理者に相談しながら、職員の意見、提案を反映しながら働き甲斐のある職場環境に取り組んでおり、本年は皆勤賞が設定された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事考課をとりいれてあります。また、急遽今年は無遅刻無欠席等のスタッフ対して、皆勤賞等も設定されたりと環境面において新しい動きがみられました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の流れにおいて、業務マニュアルに沿い、また勤務形態に応じて、ベテランスタッフがサポートするようにしています。全体会議、ミーティング等でも勉強会を行っています。専門職としての学びの場となっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿・菊池ブロックの連絡会に入会しており、毎年度、計画を立て、研修を開き、勉強会を行っています。お互いの情報交換、交流する機会として、役立たせています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、家族との関係性を保ちながらまた馴染みの環境等へ配慮しつつ、状況によっては、外泊、外出等を行い、少しずつ慣れて頂けるように支援しています。笑顔で安心して、他者との関わりが持てるように、スタッフで配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや意向を傾聴するようにしています。また、家族の協力が必要であり、利用者様の状況において、医療面での対応や状態悪化時等における対応について、安心して頂くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との関わりを持ちながら、馴染みの環境を継続し、アセスメントしながら安心できる環境作り、提供できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことを見極めながら、洗濯物たたみ、掃除等、役割ある生活を行っていただいています。尊厳を保ち、本人のペースを大切に関係性を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆、関係性は、大切にしています。ホームでの生活が長くなる分、家族と過ごす時間を大事にしています。本人と家族の関わり合いの時間に配慮しています。状態悪化時等は、家族と連絡調整を行い、家族とともに寄り添い支援できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会等あるときは、自室に案内し、ゆっくりと話せるようにしています。今後も、気軽に面会できるよう声かけを行い、関係性が保てるように努めています。	家族や知人の面会時には、居室又はホールに案内し、お茶を差し上げゆっくり寛いでもらい、これまでの関係性が途切れないよう努めている。また、馴染みの美容室や食後のコーヒー、書や歌など、一人ひとりの習慣や好みを尊重し、継続できるようにしている。法事や盆・正月での帰宅など家族を中心としてこれまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、リビングでの団欒等において、利用者の方の関わりを大切にしています。トラブルや不穏な空気になるような場面では、穏やかに保てるようにスタッフが見守り、関係性が保つように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでも、ホームから退去等された方においては相談行いながら、次の方向性が出るまでの支援することを大切に考えています。本人、家族の経過を見守り、フォローできるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたい、馴染みの場所、行きたいところ、食べたいもの等、利用者から意向を確認して、個別に支援するように心がけています。ある程度のわがままも聞けるように支援しているところです。	入居者の思いや意向は、あらたまった形でなく、普段の寄り添いや会話の中で、一人ひとりについて把握し、個別に支援するよう努めている。思いや意向の把握が困難な場合は、食べたいものを写真を見せて尋ねたり、家族の協力を得て把握するように工夫している。帰りたい人がいたときは、ふるさと訪問の形で実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのように生活されてきたかを把握しながら、本人や家族からの情報を聞き、本人がどのように暮らしてきたか、確認するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活を観察しながら、ホームでは、活動が減り、体力が落ちやすい為、できるだけ、体操、レクリエーション等を行い、楽しく身体を動かす機会をつくり、経過をみて状態を把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況をみながら、担当スタッフ、家族等関わりあるもので意向を聞き、方向性が出せるようにしています。身体面、精神面の支援に限らず、様々な観点から、ケアにつなげるように心がけています。	入居者、家族の思いや意向を把握し、3ヶ月～半年に1回プランを見直し、担当者が中心となりミーティング等でスタッフの意見を聞きながら策定している。家族にプランを説明する際は、要望を確認しながらわかりやすく行い、了承を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の生活における気づきや状態の変化等、経過を伝え、記録していますが、モニタリング時次につながっていないこともあります。記録方法においては、様式を変更しました。見易さ等に配慮、明確に、簡素化した記録方法を実践しているところです。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外食等、気分転換での支援はもとより、各々の利用者様の要望を聞きながら、状況によっては数人単位で出かけることもあります。家族との関わりが少ないところは、スタッフで関わりをもち安心して生活できるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を活用しています。資源を利用しながら、自分らしい暮らしができるように支援しています。住み慣れた町での暮らしをサポートできるよう衣替え等状況に応じて自宅へ帰っていただいたり、また、図書館、公園等支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、家族と主治医と面談して頂くようにしています。毎月、定期的に受診行い、状態を確認できるようにしています。状態変化時は、主治医の指示の元、状況によって協力医他医療機関へ受診支援行っています。	入居時に協力医(母体医療機関)について本人・家族に説明し、了承により現在は全員の定期受診をホームで行っている。職員は毎朝のバイタルチェックをはじめ、体重測定(月2回や週1回)や排泄・食事など日常のケアの中で、気になることがあればすぐに協力医への連絡し、早めの受診や指示を仰いでいる。また、病状によっては他の医療機関との連携など家族の安心となっている。眼科・皮膚科など専門機関においては家族や必要に応じてホームでも受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の受診支援では、1階小規模の看護師と同行し、状態把握するようにしています。突発的な状況があった場合や医療面での関わりが強いようなときは相談するようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医他状態悪化等で受診、入院等ある場合は、利用者の状態が分かるスタッフ状況の分かるものが付き添い、情報提供しています。他、入院期間等の状況により、医療機関また家族や主治医と相談、連絡を取りながら、方向性を出せるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態悪化した場合やホームでの生活が困難になった場合は、家族、本人、主治医、管理者等で話し合うようにしています。骨折等では数ヶ月かかることがあります。その後の話し合い等で退院後、ホームで暮らすケースも以前より増えてきました。状況によっては、その後、特養等に移行するケースもあります。	重度化や看取り支援については実施しないことや、ホームで出来るギリギリまで対応していることを丁寧に説明している。また、家族の思いをくみ取りながら、その都度話し合うことも申し添えている。家族の中には状況に応じ特養を申し込まれる方もあり、法人の特養の存在についても伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、また事故発生時等、スタッフが対応できるように取り組んでいます。その日のリーダーが、オンコールにて対応する体制を組んでおり、状態把握しているものが対応するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難行っています。非常災害時の緊急連絡網等の確認。また、災害等に備え、備蓄を3日分は確保する等、対策の必要性を強く感じました。地域の区長との普段の関わりも行うようにしています。また、地域の訓練等も参加、協力している状況です。	ホームは建物の2階であるため、普段から入居者の安全確保や地域との連携に意識をもって取り組んでおり、防災についての話し合いを11月にホールで開催予定である。自動火災通報装置の設置や年2回の火災想定避難訓練(消防署参加・自主)、緊急連絡の確認をはじめ、コンセンートの埃などもチェック表により実施している。防災について話し合いをホールで開催予定である。昨年の震災では備蓄を行政に頼っていたのが現状であった語り、備蓄3日分の備えなど早急な改善が行われている。	今後も1階の多機能事業所とも連携しながら入居者の安全確保に努めていきたい。また、エレベーターによる救出訓練を業者と実施予定であり、実現に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行状況により、その方に分かるような声かけを行うようにしています。尊厳に配慮した関わりを基本としています。利用者の部屋の戸は、閉まっていることを基本とし、空いてるには換気等外からみて分かるように配慮しています。	入居者一人ひとりがその方らしく自然体で生活できる支援を理念に掲げ、管理者は言葉使いや支援方法にも細やかに指導を行っている。呼称は基本的に名字にさん付けとし、入室時のノックの徹底や同性介助による入浴支援に努めている。入居者同士の言葉のやり取りで、時にはその場の雰囲気壊すこともあり、職員は必要な場面で双方の誇りを損なわないようにサポートを行っている場面がみられた。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、利用者の希望、要望等においては、しっかりと耳を傾けています。このたび、熊本復興支援でサーカスが来熊しており、利用者様からの強い要望あり、調整等行い、見物に出かけるようにしました。体調や外出先での排泄等の不安もある為、最終的には本人の意思を尊重し、決定するようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴等は基本的に日課としています。毎日の生活の中では、特に外出等行事がない日等は、自由に過ごしていただいています。ホームでは、どうしてもリビングで過ごす時間が長くなるのが現状です。昼食後は、自分の部屋で各々休まれる方もいます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	まだまだ、認知機能が保たれている方においては、外出時、入浴の着替え等の衣類を自分で選んでいただいています。身だしなみをきちんとしていただけるよう清潔の面等で支援できるように努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の意向、要望を大切にしています。寿司、お好み焼き、饅頭等、食事やおやつを通じて、外食支援や普段の食事やおやつ等でも取り入れるようにしています。運動会や敬老祝賀会等の行事では、弁当も利用者の意向をくんだオリジナルなものに調整しています。	食事は楽しみの一つであることを職員は十分理解し、テーブルの配置や語りかけなど雰囲気作りも大切にしています。昨今では入居者の食の好みも変化しており、和食と洋食もバランスよく献立に取り入れている。食材は地元商店を中心に顔の見える配達が継続されており、旬や鮮度が更に美味しい食事支援となっている。家族にあらたまって日々の食事を紹介する機会はないが、面会と重なった場合は内容や本人の摂取状況を見てもらうようにしている。	入居者も下膳などできることで食への関りを支援しており、今後も職員と一緒に楽しい食事支援に取り組んでいきたい。また、味や盛り付け、調理方法など職員も気づいたことがあればその都度意見を出すことが、同じものを摂ることの利点と思われる。取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は皆さん楽しみにされています。主食のご飯は、利用者の状況に合わせて量は調整しています。肉、野菜、魚のバランスを考えて美味しく食べて頂ける様にしています。最近では、洋食も献立に入る頻度が増えてきて、思考も変わってきたように感じています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各々の利用者様の部屋で口腔ケアを行っています。義歯の方は、歯ブラシを使い、流水で洗っていただいています。声かけで促がしやできないところを支援しています。自分の歯が残っている方等は、しっかり磨いていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、羞恥心に配慮行い支援しています。利用者の排泄は、他の方には分からないよう、プラス、〇(マル)等を用いて伝えるようにしています。自立を促がした上でのリハパン使用、昼間は布パンツにパット、夜間はリハパンにパット等、状況に応じて支援しています。	トイレへの誘導や声かけ、失禁時の対応など入居者の尊厳やプライバシーに十分配慮して行っている。居室にはトイレが備わった部屋もあり、特に臭気が居室環境を損なわないように心掛けている。日中は基本的にトイレでの排泄に取り組んでおり、布パンツにパット、夜間はリハビリパンツにパットやポータブルトイレなど個々に応じて支援している。	芳香剤はトイレの広さなどによっても逆に不快になることもあると思われる。掃除が行き届いていることから、使用の可否や無香の脱臭効果のあるものなど検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では食物繊維、ヨーグルト、バナナ等を摂取、水分しっかりとられるよう促がしています。ホームでは、座ったままの姿勢で、中々腸を動かす機会も少なくなるため、食事水分等に配慮しています。排便がない場合等には、便秘薬等も調整しながら支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に、少人数でゆっくり入浴できる環境で入浴支援しています。洗身時出来るところは声かけ見守り支援にて対応しています。菖蒲やゆず、お茶を利用したりと季節、香り等に配慮してリラックス効果を高めたりと支援しています。他、入浴日以外の日、個々に応じての支援ができていないのが現状です。	浴室や脱衣所は清潔に管理し、気持ちよく入浴できる環境を整えている。基本的に週3回、介助や自身での洗身も必要を見極めながら、個浴でゆっくり楽しんでもらえる入浴支援に努めている。菖蒲や柚子など季節湯は全員が入れる日数を検討している。入浴時の着替えの選択も希望を聞きながら一緒に行うことで、スムーズな入浴やおしゃれへの関心をなくさないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出先から帰ってきてから等、疲労感がある場合や本人からの訴え時、また昼食後等には、自由に休息出来る環境を提供、支援しています。夜間の睡眠に影響しない程度に昼間の睡眠も支援している状況です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎に処方せんあり、各々の状況は把握しています。定期の薬に、急遽状態等にて頓服薬や追加薬が処方になった場合等は、要観察行い、変化等みられる場合は、直ぐに主治医へ報告するようにし調製しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物畳み等、できる場所は役割として、お手伝いしていただいています。趣味の継続や外出、外食支援等楽しんで生活できるようにしています。テーブルクロス設置、拭き、ランチョンマット拭き、食べた後の食器片付け等も利用者様がすすんでされています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各月の行事担当者と管理者が利用者の意向を確認して、計画書を作成して外出支援等行っています。季節にちなんだ外出に配慮しています。気候が良い時期には、弁当を持って公園に出かけたり、またドライブしたりと気分転換行うようにしています。時々、行事等にホーム外に行く事への配慮するようにしています。	計画的な外出は担当者を中心に季節や入居者の意向を確認して行っている。また祭りやからいもフェスティバルなど地域のイベントに出かけることは、懐かしく更に入居者の笑顔を引き出している。桜やポピー、コスモスなどの花見物は車窓を中心に行っている。自宅に愛読書や衣類を取りに帰ったり、ホーム周辺の散歩や外食など、個別や数人での外出支援にも取り組んでいる。近日中には開催中のサーカス観覧も予定されている。	外食は食と外出を楽しめる機会であり、行先やメニューの選択で気分が高められるよう、チラシも大切に綴っている。今後も地域の良さを感じながら身近な散歩や、職員のアイディアを活かした外出支援の継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中には、財布の入ったハンドバッグを肌身離さず持っている方、財布の中身を時々確認している光景は、安心し、楽しまれているようでもあります。また、帰宅願望とともに、支払い等のお金を心配され、不穏になる方も居ます。訴え時は声かけし、金庫より財布を確認して頂くことで安心されます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が、面会時等に本人と、子供や馴染みの方等との連絡をし、各々調整されることがあります。状況に応じては、外出、外泊等もあります。食事の調整等も行い、関わりが保てるお手伝いをしています。本人の希望があれば電話もかけるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面の配慮は随時調整して、利用者様が快適に過ごせるように努めています。テレビを見るときには、逆光の光りをブラインドで調整したり、換気や温度調整等で窓を開けているときでも、風に当たると寒いといわれるときや状況がある為、窓を小まめに開閉したりと調整しています。	入居者は日中の殆どをリビングで過ごされており、管理者はブラインドによる遮光調整や温湿度管理も入居者にとっての適温のことを指導している。ホーム内は入居者の作品を掲示したり、華美にならない飾りつけを施しながら季節を感じてもらえるよう工夫している。ソファでテレビを見たり、雑誌や新聞を広げられる方、開いた窓からは近隣のモクセイの匂いが届き、入居者も「モクセイた〜い！」と嬉しそうに発せられていた。	外出や活動の様子を写した写真をエレベーター内にも掲示することで、家族や来訪者にとっても2階までの時間が楽しみなものになると思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や普段の生活スペースでもあるリビングにおいて、気の合う利用者様同士で楽しく過ごせるよう調整しています。各々馴染みの場所があり、出きるだけ、その場所で過ごされる環境を整えながら、日々過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面会時等は、本人の部屋へ案内してゆっくりと会話できる環境に配慮しています。面会時には、美味しいお茶を提供して、居心地の良い空間作りのお手伝いをしています。また、普段から自分の部屋で自由に休んだり、くつろげるよう配慮を心がけています。	一人ひとりが自分の部屋として安心して過ごしてもらえるよう、使い慣れた品や好みの物など持ち込んで欲しいと伝えている。居室によって採光の度合いも異なることから、室温管理は本人にも確認しながら対応している。また、本人と共に家族や知人など面会者にも居心地よく過ごしてもらえるよう、心配りしている。日中はプライバシーにも配慮しながら十分な換気にも取り組んでいることが確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの自立した方には、掃除等お願いして本人役割としていただいているところです。洗濯物置き等はその方の状態等に合わせ、椅子を準備したり調整しています。感謝の気持ちで接することを大切にしています。		